

がん政策サミット 2010春

～患者と議員が作るマニフェスト～

2010年4月10日(土)、11日(日)、12日(月)



4月10日から12日の3日間、「がん政策サミット2010春～患者と議員が作るマニフェスト～」(主催:日本医療政策機構 市民医療協議会 がん政策情報センター)が開催され、国と都道府県のがん対策推進協議会等の患者関係委員、公募によって選考を経た全国の患者アドボケート計48人が、31都府県から一堂に会しました。

前半2日間にわたっては、患者主体のがん対策を実現すべく議論を重ね、「患者が提案するマニフェスト案」を作成。12日には、国会議員勉強会を開催し、このマニフェスト案を国会議員へ提出しました。

1日目／4月10日(土)

来賓挨拶



「患者の声を国の政策に反映させたい」

厚生労働省 健康局総務課がん対策推進室 室長 鈴木健彦さん

4月9日、がん対策推進協議会の委員のうち8人が、「平成23年度 がん対策に向けた提案書～みんなで作るがん政策～」を長妻昭厚生労働大臣に手渡しました。大臣自身ががん患者・家族である委員の声を直に聞いたのは大きな出来事だったのではないかと思います。

都道府県もがん対策推進計画、そしてアクションプランを策定しています。それを実現するためには各地の患者関係者の皆さんのお力が重要になります。

今後とも皆さんのご意見を聞きながら、「がんに負けない社会」を実現していきたいです。

Report / グループワークの様相

がん対策の「目指す姿」まとめる

今回のがん政策サミットの目玉は、患者アドボケートたちがグループワークによって、がん対策向上のためのマニフェスト案を作成すること。1日目には、まず5つのグループに分かれて、がん対策の主要10分野それぞれについて、「目指す姿」をマニフェスト文案にまとめました。がん対策がより確実に実現されるために何が必要か白熱した議論を重ね、患者・家族・遺族の切実な声が詰まった10本の文が完成しました。

その後、がん対策全般におけるビジョンを、参加者全員が議論する全体ワークショップを行いました。参加者からは次々と意見が出され、患者が理想とするがん対策のビジョンが「総合マニフェスト案」として取りまとめられました。



「がん対策を国会の場で議論してほしい」
日本医療政策機構 がん政策情報センター
センター長 埴岡健一

5カ年計画のがん対策推進基本計画は、折り返し点を過ぎ4年目に入りました。厚生労働省は、目標は達成されつつあると言っていますが、現場・患者さんは何も変わっていないと感じています。達成されつつあるという計画の目標に、果たして質は伴っているのでしょうか。

がん対策は医療提供者による治療だけでは為し得ません。皆で力を合わせることで日本のがん対策は良くなります。患者・家族の声を議会の中で議論し、政策として実施していくことが重要になってくるといえるでしょう。



Report / グループワークの様様

マニフェスト案に入れるべき具体的施策とは

2日目のグループワークでは、1日目に確定した10項目の個別分野のマニフェスト案を実現するには、どのような施策が優先的に実施されていく必要があるかについて議論しました。

施策は、「平成23年度 がん対策に向けた提案書～みんなで作るがん政策～」に掲載されている140施策を参考にしました。これは、国のがん対策推進協議会 提案書とりまとめワーキンググループが、タウンミーティングやアンケートを通して集めた全国の患者・現場・地域の意見をもとに取りまとめたもので、協議会での審議・承認を経た後、同協議会から厚生労働大臣に提出された提案書です。

この提案書で挙げられている施策のうち、マニフェスト案を実現するにあたって、「効果」と「実現性」がより高い3本を、選んでいく形を取りました。

各グループでは、患者リーダー自

身が司会役も果たしながら、「これは実現してほしい施策だが、法律改正が必要になることから実現性の低さが予想されるため、別のものを優先施策にしたほうがよい」「患者が声を集約すれば、法律も変えられるのではないか」などと、活発な議論を交わしました。



梅村聡さん
(民主党・参議院議員)

「私は、がんの患者さんの本質まではわかっていません。ぜひ本音を聞かせてください。皆さんと協働作業で政策を作らせていただきたいと思います」



柿澤未途さん
(みんなの党・衆議院議員)

「患者の多くは苦しい痛みを抱えてつらい状況のまま最期を迎えています。これを何とか改善するのが、私の政治家としての最大のテーマです」



下田敦子さん
(民主党・参議院議員)

「がん対策をしっかりやるためには、患者・家族、地域、行政が一緒にならないとだめだと思います。議員も行政も活用して、皆さんの活動を広げてください」



菅原一秀さん
(自民党・衆議院議員)

「一人でも多くの方ががんとの闘いで命を落とさないように、病気、心の痛みもケアもできるように、最善を尽くしていきたいと思います」

Report / 国会議員勉強会の様様

国会議員からマニフェスト案を受け入れる発言相次ぐ

3日目に開催した国会議員勉強会では国会議員14人、議員秘書19人が参席するなか、患者アドボケートが2日間にわたり作成したマニフェスト案を、分野ごとに発表しました。その一部を紹介します。

「放射線療法及び化学療法の推進並びに医療従事者の育成」の分野においては、「一人の患者さんに対して、どのようながん医療が最適なのかを考えていく集学的治療が確立されないということは、患者さんにとっても医療全体から見ても不利益だと思います。ぜひ、集学的治療が推進され、それを実行していけるような医療者の計画的育成をお願いします」とのコメントが愛知県の花井美紀さんから出されました。また「がん登録」分野では、岡山県の宮本絵実さんから「がん登録でデータを集めることは次世代に対して、予防・治療・福祉・生活すべての面で大きく寄与することと考えます。がん登録の認知を進めること、推進の方法をいかにすべきか、この2点を軸に考えました。ご検討をお願いします」といった要望も寄せられました。

これらの発言から、患者アドボケートは「患者の声」を国会議員に届けたことに確かな手ごたえを感じていました。今後は、「患者が提案するマニフェスト案」が、各政党のマニフェストに盛り込まれるだけでなく、確実に政策に反映されるよう、見届けていくことを誓いました。(ライター 福島安紀)

※なお、この議員勉強会への参加議員(秘書除く)は以下の通りでした(五十音順)

網屋信介さん(民主党・衆議院議員)、石毛鏡子さん(民主党・衆議院議員)、大河原雅子さん(民主党・参議院議員)、尾辻秀久さん(自由民主党・参議院議員)、郡和子さん(民主党・衆議院議員)、奥石東さん(民主党・参議院議員)、齊藤進さん(民主党・衆議院議員)、佐藤公治さん(民主党・参議院議員)、塩崎恭久さん(自由民主党・衆議院議員)、古川元久さん(民主党・衆議院議員)、皆吉稻生さん(民主党・衆議院議員)、村井宗明さん(民主党・衆議院議員)、山口和之さん(民主党・衆議院議員)、山崎摩耶さん(民主党・衆議院議員)

